

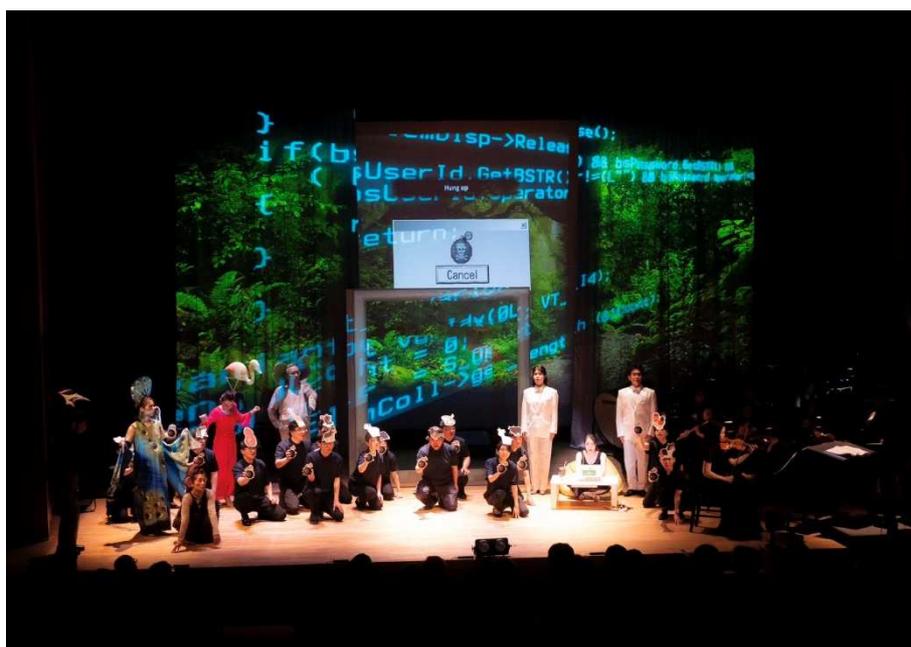
令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	地域文化功労者文部科学大臣表彰受賞記念公演 新倉健 「音の個展IV」 オペラ「窓-Windows-」
日時	令和5年5月21日(日) 1 回目:午後1時半開演 2回目:午後4時開演
会場	倉吉未来中心 小ホール
実施者(団体)	新倉健 「音の個展IV」 オペラ「窓-Windows-」実行委員会
補助金額	1,000千円

鳥取市在住の作曲家 新倉健氏によるオリジナルオペラ「窓-Windows-」を、主に鳥取県内で活躍するキャスト、合唱、オーケストラにより上演した。オペラ「窓-Windows-」は、窓にまつわる3つの不思議な物語からなるオムニバス・オペラで、都会と故郷、孤独と共存、自然破壊への警告などの現代的問題を提起する内容となっている。

今回の公演では、2011年の初演よりオーケストラをスケールアップするとともに、出演者に県内の若手アーティストを多く起用し、県外から招聘した演出家や指揮者の指導を受けるなど、県内の文化活動者の育成の機会ともなった。

新型コロナウイルスの感染対策が緩和された直後でもあり、観客のみならず出演者にとっても、新鮮で充実した経験を得ることができた。2回公演で360人の来場があり、鑑賞者からは、「音、物語、映像のハーモニーが素晴らしかった」、「オペラと聞くと敷居が高かったが、現代的な内容でよかった」、「初めてオペラを体験して、生の声の音量と美しさに感動した」といった感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	言水抱泉書展 -わたしを形成してくれたもの-
日時	令和5年6月8日(木)～11日(日)
会場	鳥取県立博物館第3展示室
実施者(団体)	言水 さつき(抱泉)
補助金額	300千円

岩美町在住の書道家 言水抱泉氏による自身初の個展。令和4年度に鳥取市文化賞を受賞したことを契機とし、書の魅力の発信と自らの挑戦の場として、「わたしを形成してくれたもの」をテーマに、大作から小作品まで、新作を含む29点が展示された。中でも、「父のことばより」と題し、「海みたいな心の持ち主になれ」と書かれた縦2.4メートル×横9メートルの作品など、大作7点が一同に展示されるとともに、淡墨・濃墨・少字数・多字数・臨書作品など、様々なジャンルの作品が展覧され、多彩な書の世界を楽しめる機会となった。

期間中は「第50回記念山陰書人社展」が併催され、1,517人の来場があり、鑑賞者からは、「字の配置や文字の大きさ、強弱で力強さや優しさが伝わった」、「思いが文字にのっているように感じた」といった感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	住川英明書展 - 池畔好日 -
日時	令和5年8月29日(火) ~9月3日(日)
会場	鳩居堂画廊4階(東京都中央区銀座)
実施者(団体)	住川 英明
補助金額	300千円

鳥取市在住の書家 住川英明氏が、自詠の短歌を漢字仮名交じりの書にしたための作品展で、テーマ「池畔好日」のもと、湖山池を中心とする鳥取県東部の風光の中で育まれた、作者の人と自然に対する思いを表現した作品22点が並んだ。

現在、鳥取大学名誉教授である住川氏が、同大学退職を機に、2022年12月に鳥取大学広報センターにおいて開催した個展を改めて全国展開するもので、書芸術の中では比較的新しい領域である、現代の言葉を書く「漢字仮名交じりの書」制作の成果を発表するとともに、自詠自書を試みた先進性のある展示内容となった。

銀座の鳩居堂画廊で開催され、書の愛好家のみならず、関東在住の鳥取県ゆかりの方など、約240人の来場があり、鑑賞者からは、「初めて書の個展に行ったが、全ての書に作者の思い、解説があり、すごく新鮮で楽しかった」、「一つ一つの作品から故郷である鳥取の自然と、その景色が想起され、改めて鳥取は本当に素敵な場所であり、かけがえのない故郷であることを感じた」といった感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	野原武伸・鳥取サクソフーンクラブジョイントコンサート
日時	令和5年9月23日(土) 午後1時半開演
会場	わらべ館 いべんとほーる
実施者(団体)	鳥取サクソフーンクラブ
補助金額	46 千円

鳥取サクソフーンクラブは、鳥取県在住のアマチュアサクソフーン奏者によるグループで、(財)鳥取県文化振興財団が実施するとつとりの芸術宅配便事業における学校等での演奏や、コンサート、イベント等での演奏活動を行っている。

今回のコンサートでは、昭和音楽大学講師を務めるプロサクソフーン奏者、野原武伸氏をゲストに迎え、県内在住のピアニスト、岸本聖華氏を加えて、サククス・ピアノ6重奏という珍しい編成で、この編成のために編曲されたコンチェルト(協奏曲)や、比較的新しい楽器であるサクソフーンの歴史において最初期に作られたクラシック曲などを演奏した。

また、演奏会前日には、野原氏による県内高校生を対象としたワークショップも開催した。

当日は、約 60 人の来場があり、「知らない曲が多かったが、それぞれに良さがあり楽しめた」、「サクスの表現の幅広さ、繊細さに気づいた」といった感想があった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	鳥取バロックアンサンブル with 赤津眞言
日時	令和5年10月9日(月祝) 午後2時開演
会場	日本基督教団鳥取教会
実施者(団体)	鳥取バロックアンサンブル
補助金額	54 千円

鳥取バロックアンサンブルは、鳥取市等のリコーダー、チェンバロ、弦楽器奏者によるグループで、今回の演奏会は、ヨーロッパ在住のバロックヴァイオリニスト、赤津眞言氏からの「鳥取バロックアンサンブルの皆さんと一緒に演奏したい」との提案をきっかけに実現した。

演奏会は、響きのよい教会の聖堂で行われ、赤津氏をゲストに、バッハの器楽曲の傑作として名高い「ブランデンブルク協奏曲」から第4番、ヴィヴァルディのリコーダー協奏曲などが演奏された。現代においては、バロック音楽(17世紀初頭から18世紀半ばまでの音楽、有名な作曲家はヘンデル、バッハ、ヴィヴァルディなど)であっても、現代の楽器を用いて演奏されることが多いが、今回の演奏会のように、作曲当時の演奏法や楽器を用いた演奏も行われており、演奏には、古楽器や演奏方法に関する研究や深い知識、技術が必要とされる。

当日は、ほぼ満席となる112名の来場があり、鑑賞者からは「初めてのバロック音楽、未知の領域に触れ、好奇心をかきたてられた」、「楽器同士の音の重なりがとても重厚で教会の中での響きも美しく、うっとりした」といった感想があった。古楽器による演奏を初めて聞いたという来場者も多く、今後は古楽器や演奏方法に関する解説を加えながら、鳥取県内では数少ないバロック音楽の演奏機会を増やしていくことが予定されている。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	アラビアンナイト at 砂の美術館
日時	令和5年10月21日(土) 午後7時開演
会場	砂の美術館(鳥取市)
実施者(団体)	鳥取ダンス協会
補助金額	300千円

「砂で世界旅行・エジプト編」が開催されている鳥取市の砂の美術館において、砂像を背景とした他にはないコラボレーションの中で、県内のダンサーやゲストダンサーにより、ベリーダンスやアラブ音楽が披露された。砂の美術館を会場とした舞台公演は初めての試みであり、会場や舞台設営など苦心した点もあったが、エジプト文化を表現した砂像と、エジプトを発祥とするベリーダンスやダラブッカ(アラブ音楽等に用いられる打楽器)との組み合わせは、出演者と来場者の双方に新たな発見と感動を呼んだ。

当日は約170人の来場があり、鑑賞者からは「ベリーダンスとエジプト砂像がとてもよく調和していた」、「世界の踊りの美しさ、本格的なベリーダンスを見ることができ楽しかった」といった感想があった。

また、翌日には県民ふれあい会館においてベリーダンスを始めとして海外の様々なダンスに触れられるワークショップが開催され、前日に公演でベリーダンスを見てワークショップに参加された方もあるなど、盛況であった。



令和5年度 鳥取県文化芸術活動支援事業補助金 助成事業  
【優れた文化芸術活動支援事業】

事業名	Opera～s☆コンサート
日時	令和5年11月23日(木祝) 午後2時開演
会場	鳥取市文化ホール
実施者(団体)	EN+ER(エンター)企画
補助金額	149千円

鳥取県出身、在住でクラシック音楽を専門的に学び、県内を中心に活動する声楽家グループ「Opera～s☆(オペラーズ)」によるコンサートで、ソプラノ 尾前加寿子氏・寺内智子氏・中原美幸氏・松田千絵氏、アルト 鶴崎千晴氏、ピアノ 綿口裕美子氏が出演した。

第1部は、日本やヨーロッパ各国を代表する歌曲やオペラのアリアをそれぞれが歌い上げた。第2部の「モーツァルトの百面相」では、モーツァルトが作曲した楽曲をメドレーでつなげながらその生涯を紹介。メンバーがオペラの有名な登場人物に扮して、表情豊かに披露した。また、第3部ではクラシックの名曲や歌謡曲など親しみのある楽曲が、5人による重唱で華やかに演奏された。

当日は約 230 人の来場があり、鑑賞者からは、「美しい声に感嘆し、音楽の喜びを心よりうれしく感じました」、「趣向を凝らしたとても面白いコンサートで、また聴きたい」、「5人の合唱を聞ける機会は少なく、楽しかった」といった感想があった。

